



穴守稲荷ハイテク村
都市における拡張された生活領域

はじめに 都市空間には、住居を中心とした個人の生活領域と、その場の住民ではない人々の行き交う領域といった、性格の異なる領域どうしが密接に絡み合い、公私の性格を特定し難い状況が生じている場合がある。これらの事例は、空間構成のみからその性質を理解することが難しく、また社会的、計画学的な帰属を特定することの困難な場、いわば「多義的な空間」であるといえる。こうした領域には、所有関係の明確さや利便性といった価値でははかり得ない、場を使用する上での意味の豊かさ、大らかさがあると思われる。そこでこの計画では、働く場、学びの場、住むための場

などが少しずつ重なりながら、全体として拡張された生活領域を形成するあり方を、建築プロジェクトとして提案する。
都市に流出した居住空間 図1の例は、都内のある路地の風景である。ここでは、私有地である住居から自転車や鉢植えが通路にあふれ出し、公共の場所である通路が付近の住民の庭や自転車置き場として使われている。このことから、ここでは道路としての社会的な意味合いは通常に比べ弱まり、いわば「私性」のにじみ出しによるある種の親しみ易さが空間に生じていると思われる。図2の例は、銭湯が併設された集合住宅である。この集合住宅には各住戸に浴室があるため、銭湯はこの建物の住民にはあまり利用されず、むしろ建物の周辺に住んでいる住民に利用されている。つまりこの建物では「住む」という行為が建物内で完結するので



図1. 下町の路地



図2. 銭湯が併設された集合住宅



図3. エネ・タビタシオン

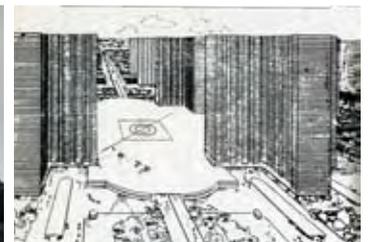


図4. 300万人の現代都市



図5. 穴守稲荷駅周辺地図

設計対象地

0 20 50 100m

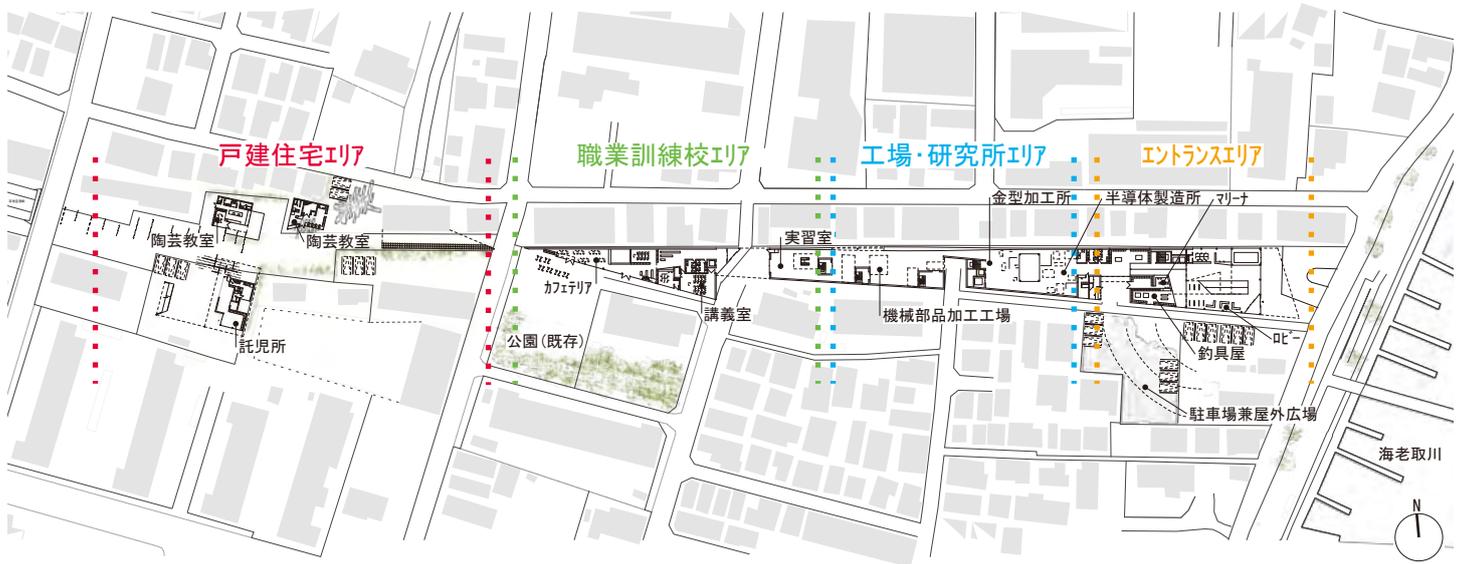


図6. 配置図兼1F平面図 S-1:2000

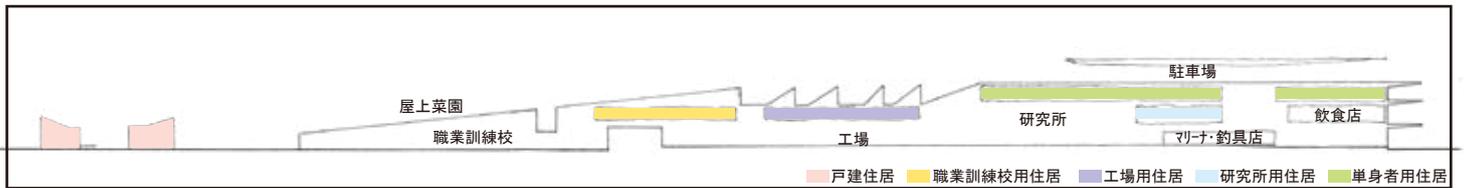


図7. 住居と施設の関わりについて

はなく、周辺住民を巻き込むかたちで成り立っているとみなすことができる。このように、地域全体として成立する機能をもたせることで、生活の行為が建物の外にあふれ出たような拡張された生活領域を生むことができると思われる。

3. 建築・都市計画における凝縮された生活領域 図3の例は、建築家の設計による集合住宅である。住宅の他に、郵便局や保育園、商店など、生活に必要となる様々な施設が併設されている。ここでは、個々の住居を単位としてではなく、生活行為全般を一つの単位として設計されており、人がこの建物内だけで暮らせることが想定されている。図4の例は、建築家による都市計画である。ここでは、住居・交通・休息・娯楽の大きく四つの機能単位が適当な大きさに分けられ、配置されている。このように、図3の例は生活全体をひとつの単位として想定し、その容器として建築を捉えたもの、また図4の例は、人間の個々の行為を単位とし、それらごとに建物を対応させたものと理解できる。しかし、図3の場合、全ての生活における行為を包含している為に建物内での完結性が強まり、内向的な構成となっている。図4の場合は、外部を介してネットワークが形成されているが、建物と周辺との関係が希薄で、均質な街並みになっていると思われる。

4. 穴守稲荷ハイテク村 前章までの検討を踏まえ、生活における行為を私有地だけにとどめるのではなく、住宅と住宅以外の要素を組み合わせることで、都市との積極的な関係をもつ住まい方を提案していく。

4-1. 対象敷地の設定 設計対象地である大田区羽田の穴守稲荷駅周辺(図5)では、東京国際空港ターミナルの沖合移転に伴う工事により、羽田空港駅跡地が、現在は大規模な貸駐車場となっている。敷地付近には羽田空港や海老取川があり、団地や戸建住宅、町工場などが密集している。

4-2. 設計方針 建築のボリュームは、穴守稲荷駅から海老取川に向かうにつれて、低層から序々に高層にする(図6)。同地域は、交通機関・住居施設・町工場・河川に隣接する環境にある。このことに配慮し、それぞれの場所に応じて建築用途を

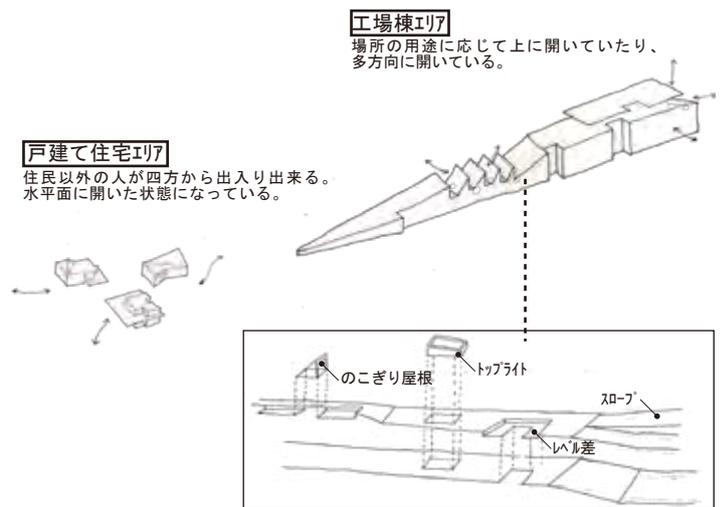


図8. 全体構成がイテグラム

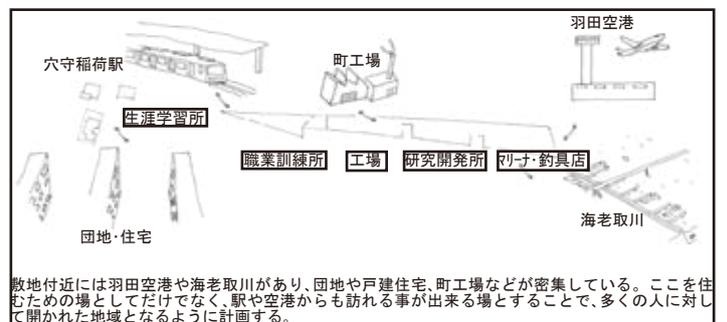


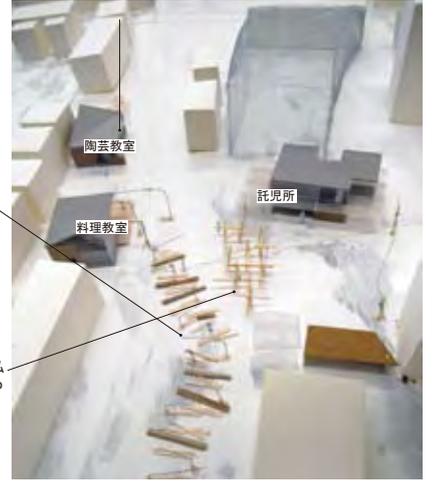
図9. 周囲との関係

適宜設定する。団地に近い所には生涯学習施設を兼ねた戸建住宅を配置し、誰でも通り抜けることができるような水平面に対して広がりをもつ構成とする。高層棟は建物だけで完結せず、既存の公園や橋、駐車場と連動させながら内部をつくることで都市との連続性のある構成とする。住戸と施設の間には吹き抜けやトップライト、床の高低差を設けることで、建物全体を緩やかに区切りつつ、街に対して開きながら住むことができる住居とする。



図9. 9戸建て住宅パース

空き工場を改修し陶芸教室のギャラリーとして使い通行者の目を楽しませる。



片持ち梁の島居が住宅のハコとなりラッシュを確保する。

託児所のジャングルが大きな底を支える柱や垣根となる。

図10. 戸建住宅がイグラム



図11. 断面図S=1/400



図12. 工場住戸パース

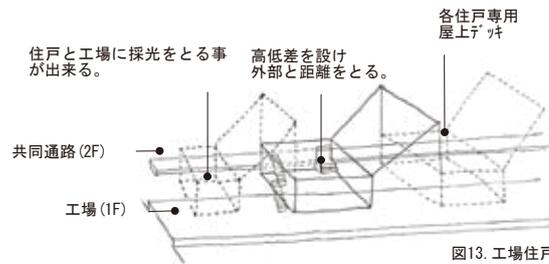


図13. 工場住戸がイグラム

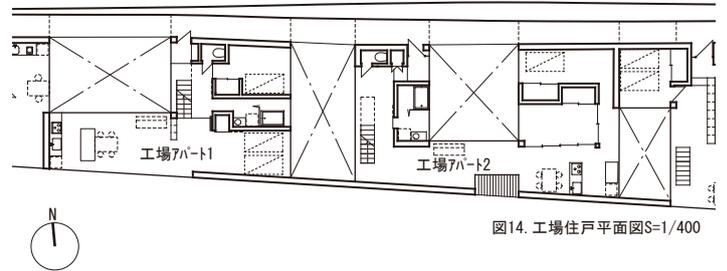


図14. 工場住戸平面図S=1/400



図15. 研究所用住戸断面がイグラム

北側に機械設計室や実験開発スペースを設け、南側にはプライバシーの高い寝室等を設ける

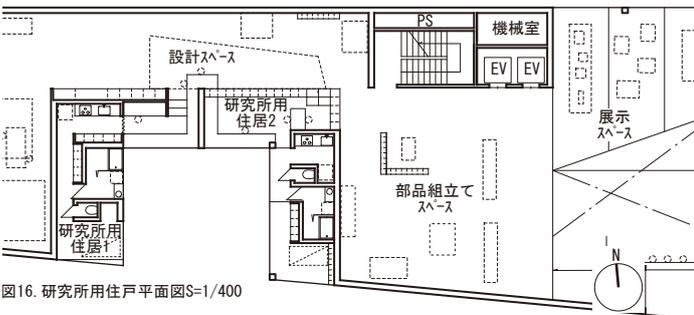


図16. 研究所用住戸平面図S=1/400

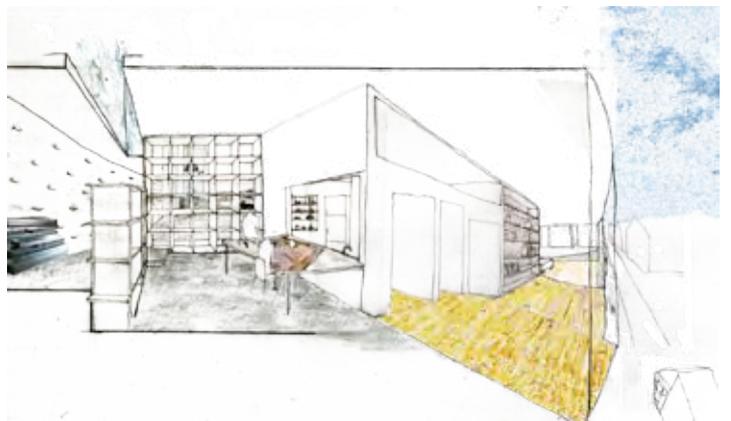
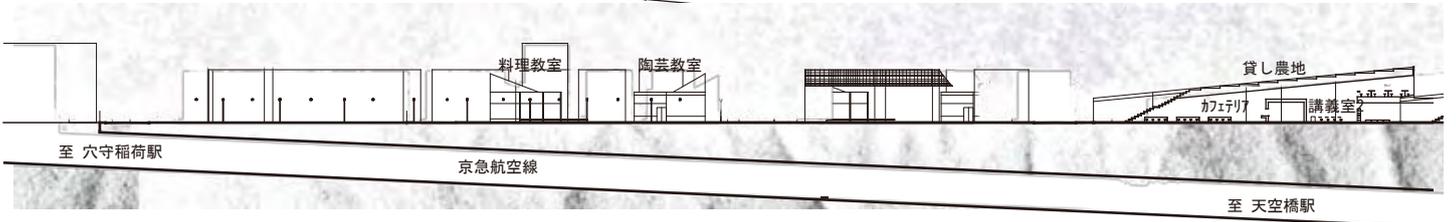


図17. 研究所用住戸パース



至 天空橋駅

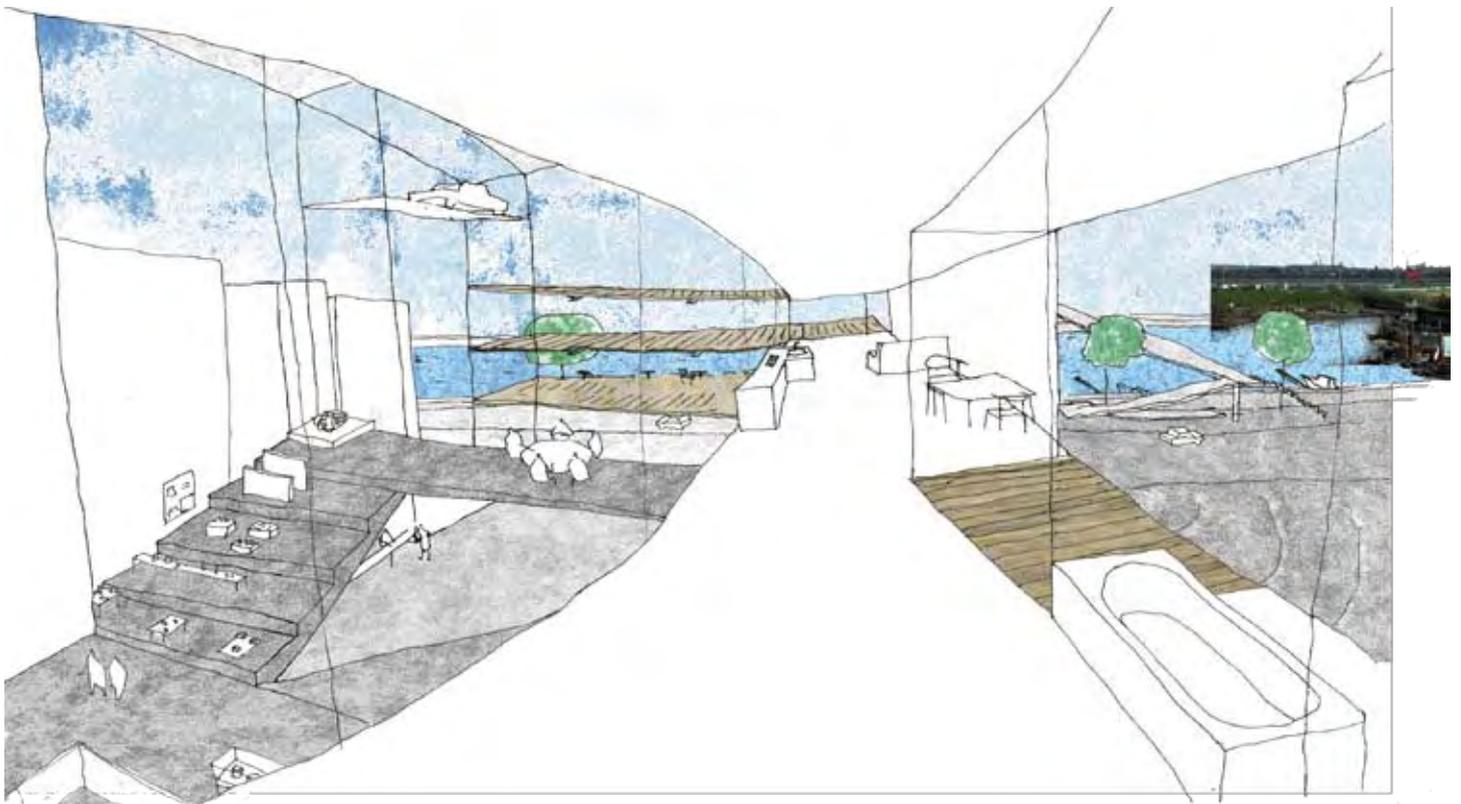


図18. 単身者用住戸ハース



図21. 職業訓練校ハース



図22. 職業訓練校がイグラム

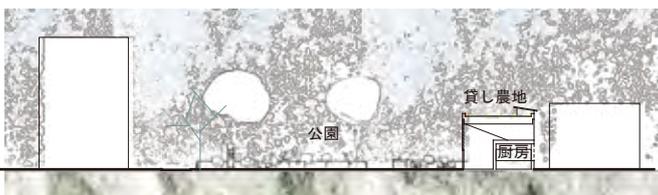
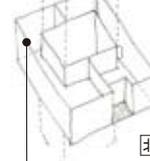


図23. 職業訓練校 断面図 S=1:800

南
住戸と下の階にも採光をとることが出来る。



北
吹き抜けの位置によって部屋の明るさや大きさがわかる。

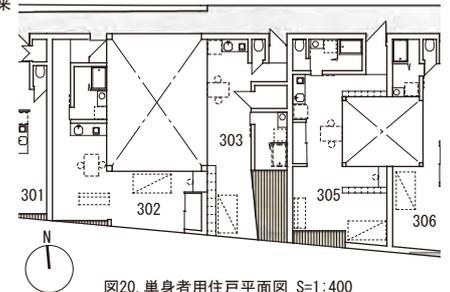


図19. 単身者用住戸がイグラム

図20. 単身者用住戸平面図 S=1:400

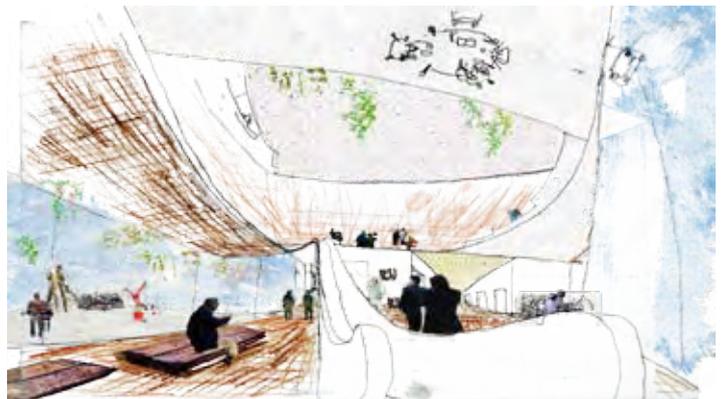


図24. エトラス付近ハース



図25. 短手断面図 S=1:800

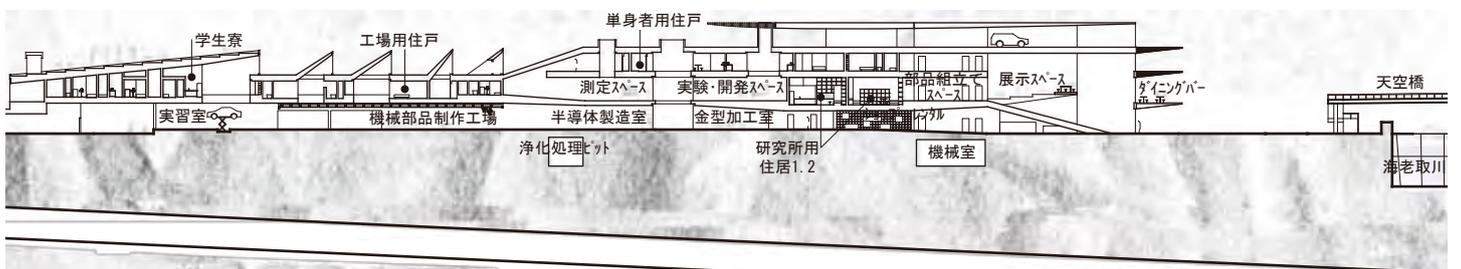


図26. 長手断面図 S=1:1000